

## 時代洞察の技術

劇作家・演出家・作家 「遊園地再生事業団」主宰 宮沢章夫氏

### サブカルチャーが生まれたのは1956年

1956年には、アレン・ギンズバーグが「Howl」という詩集をアメリカで出す。この時ビート文学（ビートニク）が生まれた。少し遅れて、ジャック・ケルアックが「On the Road」という小説を出す。出版は1959年になったが、アレン・ギンズバーグとジャック・ケルアックはコロンビア大学の友人で、彼らを総称してビートニクと言われた。ビートニクが生まれたのが1956年。もう一つ、エルビス・プレスリーが「Heartbreak Hotel」で大ヒットしている。

1955年に「Rock Around The Clock」という黒人音楽が大ヒットした。当時のアメリカのヒットチャートは、リズム&ブルース、カントリー、ポップミュージック、3つのジャンルに分かれていた。当時はリズム&ブルース、カントリーが黒人の音楽と白人の音楽として分かれていた。「Rock Around The Clock」がヒットしたとはいえ、カントリーのチャートではトップ10になっていない。エルビスのすごいところは、この3つのジャンルのチャートで全部1位になった。だから、ロックはどこで生まれたのか考えるときに1956年の「Heartbreak Hotel」エルビス・プレスリーだったと言える。

1955年に石原慎太郎は「太陽の季節」という小説を書いて、1956年の1月に芥川賞を受賞し、そこから「太陽族」というものが生まれた。戦後初、前の世代からの冷ややかな視線を生んだのが「太陽族」である。

ここではそれぞれが影響を与え合っている。

アレン・ギンズバーグはゲイだった。まだ当時はゲイというのは病気なのではないかということで、自身の意志で精神病院に入る。彼は、カール・ソロモンというもっとイカれた人に会ってしまう。アレン・ギンズバーグはそれまで、詩というものは美しい言葉を並べるものだと思っていた。が、カール・ソロモンが、そんなものではない、もっと毒のような言葉が本来の詩であると教えられ、彼は「Howl」という詩集を出す。ジャック・ケルアックはニール・キャサディに出会わなかったらこのような小説は書かなかった。ニール・キャサディは、ずっと少年院にいた不良である。ケルアックは、アメリカの中流家庭に生まれたごく普通の青年だった。それがニール・キャサディに会うことによって変わっていった。

エルビス・プレスリーは何に出会ったかという、ブラックミュージックである。黒人が白人に与えた影響、黒人から刺激された白人たちがいた。NHKの「ニッポン戦後サブカルチャー史」では、太陽族についても話したが、なぜかカットされた。石原慎太郎は何に影響を受けたか？絶対に弟の石原裕次郎である。慎太郎は一橋大学に通っていた苦学生、その一方、チャラチャラ遊んでいたのは弟である。その弟に影響を受けて「太陽の季節」という小説を書いた。それはインタビューの中でも語っている。

こうやって見てみると、サブカルチャー文学は周辺の思想、あるいはあらゆるマイノリティ、あらゆる排除された人達が創りだした文学である。それがサブカルチャーの要素の一つである。